

第1回漢方医学国際シンポジウム

開催日 2022年8月26日（金）～同月27日（土）
開催形式 オンライン形式
会頭 伊藤 隆（一般社団法人日本東洋医学会会長）

趣意書

テーマ 現代日本の漢方医学を世界に紹介する-ICD-11での伝統医学の章の新設を記念して

シンポジウムのねらい

世界的に伝統医学（TM）の認知度が高まっています。2022年1月には、新たにTMの章を含む国際疾病分類第11改訂版（ICD-11）が発効されます。この章は、日中韓の概念の調和を標準化するもので、長年の議論と努力の成果です。日本東洋医学会では、ICD-11のTM章新設を記念して、現代日本の漢方医学を世界に発信するために、この国際シンポジウムを企画しました。

日本の医療制度は、中国や韓国とは異なっていて西洋医学に統一されています。しかし、日本の医師は国民健康保険の範囲内で、西洋医薬と一緒に漢方薬を処方することができます。調査によれば、医師の8割が漢方薬の処方を経験しているとされています。わが国の漢方医学は、東洋医学と西洋医学の融合という点では、制度的にも学問的にも世界のトップレベルにあるのかもしれませんが、しかし、現代日本の漢方医学の素晴らしさを世界に発信できていないなど、まだまだ解決しなければならない問題が山積しています。

2020年1月から始まったコロナウイルス感染症-2019（COVID-19）のパンデミックは世界中に広がり、医学、それもTMにも大きな影響を及ぼしています。中国ではCOVID-19の軽症から重症の患者に対して、全国で漢方薬を主としても使用し、ワクチン接種前の感染抑制に成功したと報告しています。しかし、ほとんどの国ではCOVID-19に対するTMには十分なエビデンスがないと考え、中国と同じようにTMを活用することができておりません。日本では、COVID-19治療の最前線では、中国と同じような集団的なTMの使用はほとんど行われていませんが、日本東洋医学会会員が漢方薬の使用を試み、いくつかの症例報告がなされています。

日本東洋医学会では、漢方医学の臨床研究を推進し、その研究資金を会員に募っています。本シンポジウムで利益が出る場合は、それに貢献したいと考えています。

日本東洋医学会は、1950年の発足以来、国際シンポジウムを開催したことはこれまでありません。COVID-19の大流行をきっかけにオンライン会議が急速に発展しました。そのため、国際会議も以前より容易に行われるようになっていきます。学術交流におけるさまざまな国際的障壁が取り除かれつつあります。本シンポジウムにより多くの研究者、実務家の方々が参加されることを期待しています。

医学博士 伊藤隆
日本東洋医学会会長